

箱崎まちづくり新聞

発行者：箱崎まちづくり委員会
 電話 651-7708
 (箱崎公民館)

道路愛称名標識板の設置

「ふれあい通り」や「箱小通り」など校区で愛称を募集し決定した道路愛称名について、標示板を設置する場所を検討してきました。この標示板設置については、道路上や緑地帯など公道上に設置することは占用物になることから、地元が設置することは許可が得られませんでした。しかし、23年度に東区道路愛称プロジェクト事業(地域で名付けた道路愛称を区長が承認することで区役所が設置する制度)ができたことから、これに応募し東区長より承認いただきました。平成24年度から、愛称が決定した道路に標識を設置される予定です。

○東区道路愛称プロジェクトは、東区が道路に親しみを持ってもらい、地域コミュニティの活性化につなげるため道路に愛称を付ける事業です。公募や自治協議会からの申請等による募集を行い、合計14路線に愛称が決定しました。

【箱崎校区】



- ①箱小通り**
 はこしょうどおり
 妙見通りと国道3号を結ぶ道路
 箱崎1丁目交差点～東区役所前交差点まで
- ②ふれあい通り**
 ふれあいどおり
 箱崎新道と箱小通りを結ぶ道路
 ふれあい通り入口交差点～箱崎小前交差点まで
- ③綱屋松原通り**
 綱みやまつばらどおり
 地下鉄箱崎九大前駅から交通局箱崎変電所までの道路
- ④箱崎新道**
 はこびきしんみち
 妙見通りと国道3号を結ぶ道路
 箱崎3丁目交差点～箱崎ふ頭西側入口交差点まで

♪第6回オータムコンサート♪

11月3日(日)文化の日 19時から箱崎公民館講堂において、九州交響楽団メンバーによる弦楽五重奏の「オータムコンサート」を開催しました。会場の公民館中庭に、東日本大震災の復興を願って灯籠で「ガンバロー日本」を演出しました。コンサートは、ピオラ奏者の山下典道さんの楽しい司会で進められました。モーツァルト「ディヴェルティメント」K.ブラームス「ハンガリー舞曲第5番」、パッヘルベル「カノン」、ラフマニノフ「ヴォカリーズ」、ヴィヴァルディ「春 第1楽章」、「プリंक・プランク・プルंक」、ドヴォルザーク新世界、アンダーソン「プリंक・プランク・プルंक」などクラシックの名曲、そして映画音楽「サウンド・オブ・ミュージック」のほか、震災復興を願って「負けないで」、「見上げてごらん夜の星を」を演奏していただき、会場いっぱい120人以上の校区の方々には楽しんでいただけたと思います。

今年も11月3日の文化の日に開催する予定です。



☆クリスマスイルミネーション&イブイブ祭

毎年恒例のイルミネーション、箱崎会館と箱崎公民館の2ヶ所に飾り付けを行い、師走の箱崎のまちの賑わいを演出しました。今年は、時節柄、節電の観点から控えめに飾り付けましたが、青と白のLEDが夜景に映え美しかったです。12月23日(水)は箱崎公民館前にて、クリスマスイブイブ祭を行い、エレクトーンの演奏や松翠保育園の園児たちのかわいい歌声が披露されました。今年サンタクロースが出現し子供達にプレゼントを渡し子供たちは大喜びでした。また、お集まりいただいた保護者や地域の方々にも手作りの豚汁をふるまい、クリスマス直前の楽しいひと時を過ごしていただきました。



「福岡市都市計画道路検証結果」について

箱崎本通り(博多箱崎線)

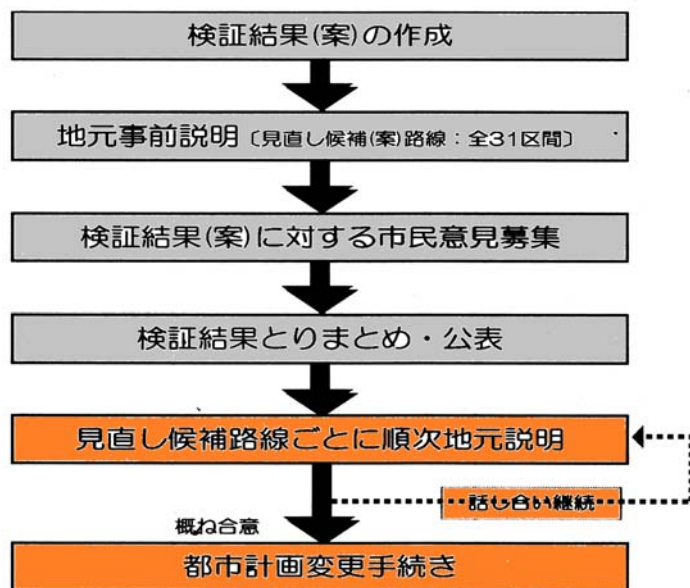
福岡市ホームページより抜粋

○福岡市では、長期間にわたり整備に着手していない都市計画道路について、あらためてその必要性等の検証を行ってきましたが、平成24年3月「福岡市都市計画道路検証結果」をとりまとめました。

「都市計画決定から概ね10年以上経過し、かつ現時点で事業化の予定のない路線」を対象路線として、都市計画道路としての基本機能(交通機能、空間機能、市街地形成機能)や既存道路の有効活用、整備効果・事業実現性の視点から都市計画道路の検証が行われた。

○今後、見直し候補路線のうち、都市計画の見直し内容について、地元説明をし、概ね合意が得られた路線から、速やかに都市計画の変更の手続きを行うことになっています。

{検証結果の進め方}



○箱崎校区内道路の検証結果(見直し候補)

・博多箱崎線(馬出5丁目～箱崎6丁目)

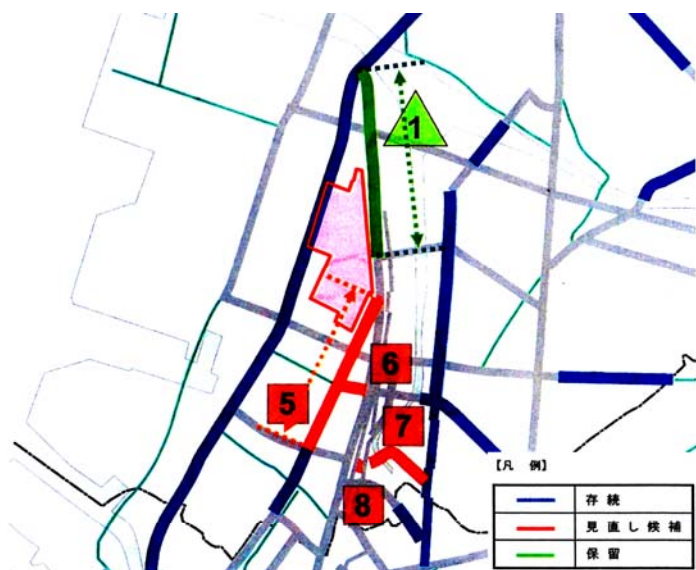
左図5で表示の路線

並行路線による代替可能性があるため、並行路線等を活用した都市計画道路機能の補完を検討し、可能性が明らかになれば都市計画道路としての計画をなくします。

・筥松新町箱崎線(法務局入口～箱崎1丁目)

左図6で表示の路線

自動車交通に対する整備効果は高くなく、本路線が接続する都市計画道路博多箱崎線の見直しと整合を図る必要があるため、都市計画道路博多箱崎線と合わせて都市計画道路としての計画をなくします。



5 博多箱崎線(馬出5丁目～箱崎6丁目): 見直し候補路線
・並行路線による代替可能性があるため、並行路線等を活用した都市計画道路機能の補完を検討し、可能性が明らかになれば都市計画道路としての計画をなくします。

1 筥松新町箱崎線(法務局入口～箱崎1丁目): 保留路線
・九州大学跡地の利用計画と連携する必要があるため、保留とします。

Facebook「箱崎情報ページ」運用

1月20日箱崎会館において「Facebook 箱崎情報ページ」の目的、利用方法などについて説明

会を行いました。Facebookは携帯電話やスマートフォンを使って、情報の交流を行うものです。これを利用して箱崎商店街やサークルなどからの情報を発信し、校区内外の方々へ情報提供することにより箱崎のまちの活性化につながるものと期待しています。「箱崎情報ページ」は、九大法学部分権ゼミの学生が試験運用したもので、まちづくり委員会が引き継ぎ運用管理することになりました。

Facebookを活性化していくためには、情報の相互交流が必要であり皆様のご利用が必要であると考えています。まずは、パソコンから「箱崎情報ページ」検索をクリックして下さい。また、インターネットが苦手な方は「箱崎公民館」と「はこぎきシール会」に設置している投稿用ポストに情報提供をお願いします。



九州大学箱崎キャンパス跡地利用

福岡市及び九州大学は、九州大学の移転に伴う箱崎キャンパス跡地の計画的なまちづくりと円滑な跡地処分に向けて、その基本的な枠組みを示す「箱崎キャンパス跡地利用将来ビジョン」を検討することを目的とし、「九州大学箱崎キャンパス跡地利用将来ビジョン検討委員会」を設置し、3月25日に第1回検討会が開催された。

検討内容としては、①まちづくりの方向性、コンセプト ②導入機能 ③土地利用構想(ゾーニング、都市基盤整備の考え方) ④跡地利用の進め方 などとなっている。

■地元4校区(箱崎、筥松、東箱崎、松島)各代表者を含め学識経験者、民間有識者、経済界、関係機関及び九大、市など20名の委員で構成されています。箱崎校区はまちづくり委員会の箱嶋が委員として出席した。

■検討委員会は、年間5～6回開催され「跡地利用将来ビジョン」をとりまとめ、平成24年度末に九大総長及び福岡市長へ提言する予定になっている。

■第1回検討委員会は、事務局より、右面の添付している地区(地元4校区)の変遷や概況、社会情勢の変化の説明あった。

■「九州大学移転跡地利用に関する提案」について跡地利用4校区協議会を代表して箱嶋が説明した。基本的考え方として、移転跡地の利用については伝統と文化あふれる環境や連帯感のある地域社会を基調にして、緑豊かで美しく住み心地のよい、みんなが誇りと愛着をもって安心して暮らせるまちづくりの新しい拠点を目指し、町発展のために大きな犠牲を払って貢献された先人に胸を張って報告できるものにしたい。

テーマ1: 総合環境・防災ステーションを中核施設として創設し、災害時に市民の避難施設となる緑豊かな公園

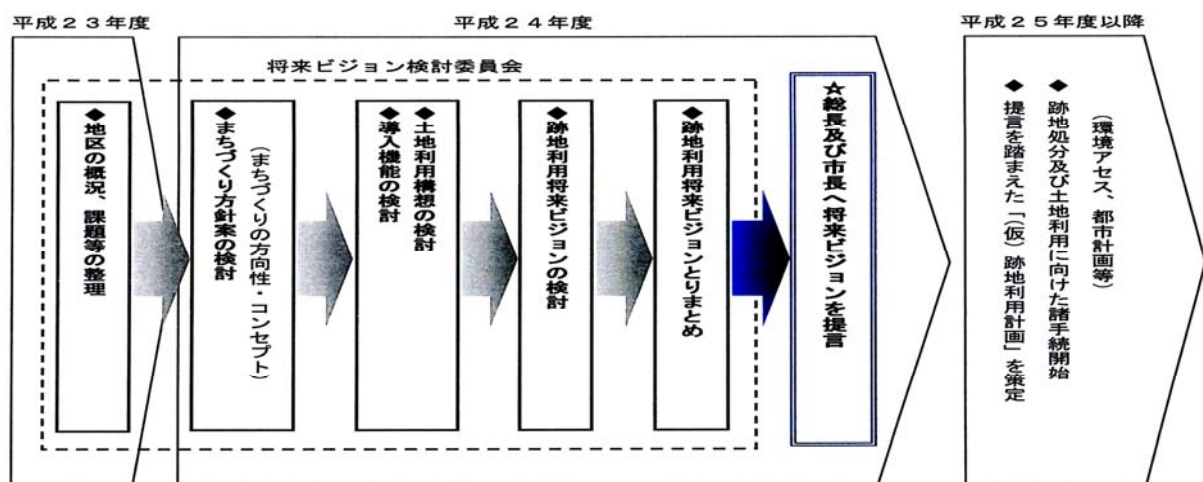
テーマ2: 教育・文化・科学研究関連施設

テーマ3: 九大病院地区との連携施設

■第1回検討委員会での主な意見 (次回以降に論議する内容)

- ☞採算を考慮しながら21世紀を語るべき。
- ☞全国的にも少ない広大な土地であり、広域的な視点で中長期的に土地利用のあるべき論を。
- ☞箱崎中学校など機能更新の位置づけ。 ☞首都、福岡市都心部のバックアップ機能。
- ☞10～30年という時間軸による社会動態のあるべき姿。 ☞防災機能の観点の対応。
- ☞100年の犠牲となった地元の思いを。
- ☞安心安全なまち、高齢化に対応するまち、環境・エコの観点。

○将来ビジョン検討委員会フロー



■ 移転スケジュールと進捗状況

第Ⅰステージ (平成17～19年度)

総数: 約 5,200人 (学生 4,200人、教職員 1,000人)

[移転人数: 約5,200人]

工学系
理系図書館Ⅰ

箱崎より移転完了
(～H18年度)
第Ⅰステージ終了

第Ⅱステージ (平成20～23年度)

総数: 約 10,800人 (学生 9,500人、教職員 1,300人)

[移転人数: 約5,600人]

全学教育、比較社会文化、言語文化、
数理学研究院、理学部数学科、
高等教育開発推進センター他
理系図書館Ⅱ

六本松より移転完了
(～H21年10月)
第Ⅱステージ終了

第Ⅲステージ 平成24～31年度

総数: 約 18,700人 (学生 15,500人、職員 3,200人)

[移転人数: 約7,900人]

理学系
情報基盤研究開発センター
中央図書館
文系
農学系・その他

※統合移転事業については、跡地処分収入を財源に伊都キャンパスの整備を行う。

○第1回検討委員会配付資料「地区の変遷・概況まとめ」

地区の変遷

<市街地の成り立ち>

- 箱崎は、**筥崎宮の門前町として栄えた町**である。
- 近代まで、箱崎キャンパスの立地する一帯は、白砂青松の名勝の地であった。
- 九州大学創設後、周辺は埋め立てが進み、工業、物流系企業が進出し、現在の市街地となった。

<九州大学の歴史>

- 明治44年に九州帝国大学(医科、工科の二分科大学)が創設**されている。
- 九州帝国大学の創設にあたっては、官民挙げて誘致活動を行い、関係自治体や地域の協力により実現した。

地区の概況

<位置及び地勢> **福岡都心部に近い東区の地域拠点**

- 福岡都心部に近い東区の地域拠点である。
- 周辺には多々良川、宇美川が流れ、平坦な市街地を形成している。
- 敷地面積は約42.6haであり、天神地区の国体道路、明治通り、大正通り、那珂川に囲まれる範囲程度の広さである。

<上位計画> **地域拠点、都心機能を補完する中心市街地に位置づけられている**

- 福岡市新・基本計画では、「市民の生活と密着した地域拠点」、「都心機能を補完する中心市街地」に位置づけられている。
- 福岡市都市計画マスタープランでは、箱崎キャンパスは、地域への貢献や新たな機能の導入等を検討するゾーン、箱崎駅周辺は、利便性が高く界限性のある地域中心核に位置づけられている。
(※福岡市総合計画及び福岡市都市計画マスタープランは、平成24～25年度に改定予定)

<交通> **陸(道路・鉄道)、海、空の交通至便地に近接し、周辺幹線道路は主要な物流動線となっている**

- 福岡空港、博多港、博多駅、福岡インターチェンジは、6km圏内である。
- 【人流】地下鉄箱崎線、JR鹿兒島本線、西鉄貝塚線の駅があり、交通至便地である。
- 【物流】陸海空の物流拠点が隣りに位置しており、箱崎キャンパス周辺の幹線道路は、それらを結ぶ主要な動線となっている。

<事業所の動向> **箱崎周辺で顕著な増減はないが、国道3号沿道で大型商業施設立地が進む**

- 福岡市東部では、博多駅周辺、アイランドシティ・香椎パークポート周辺等で増加している一方で、箱崎周辺では顕著な増減は見られない。
- 箱崎ふ頭周辺で運輸倉庫・事業所等が増加している。
- 国道3号沿道で大型商業施設の立地が進んでいる一方で、大学通り周辺で小売店や飲食店等は減少傾向

<人口> **箱崎キャンパス周辺4校区の人口伸び率(118%)は、福岡市(108%)より10%高い**

- 東区の人口は約29.2万人であり、香椎駅・千早駅周辺、アイランドシティ、箱崎キャンパス周辺で人口が増加している。
- 東区は、大学周辺を中心に外国人人口が多い。
- 周辺4校区には、約5万人が居住しており、松島校区を筆頭に全ての校区で増加傾向である。

<土地利用> **箱崎ふ頭は工業・倉庫中心、国道3号から宇美川まで住・商混在、松島地区は住・商・工が混在**

- 箱崎キャンパス内は、住居系用途地域(第一種住居、第二種住居)に指定されている。
- 航空機の進入路の直下にあり、航空機騒音第1種地域に指定されている。
- 箱崎ふ頭周辺は運輸倉庫施設、工業施設が集積。国道3号から宇美川までは住・商混在。松島地区は、住宅系、商業業務系施設と運輸倉庫施設等が混在。多々良川右岸は、ほとんどが住宅系の用途となっている。

<公共公益施設> **公共公益施設が集積し、地域拠点を形成**

- 箱崎キャンパス南側の箱崎駅周辺に公共公益施設が集積し地域拠点を形成している。

<幹線道路の整備状況> **広域幹線網は整備されているが一部路線が見直し対象路線に指定**

- 周辺の広域幹線道路等は、都市高速道路、国道3号線、国道3号博多バイパス、箱崎阿恵線等整備されている。
- 箱崎キャンパス周辺に限って言えば、幹線道路密度が低く、東西方向の幹線道路が少ない。
- 福岡市都市計画道路検証結果によると、博多箱崎線(馬出5丁目～箱崎6丁目)が見直し候補路線、堅粕箱崎線(箱崎6丁目～名島橋西)が保留路線に位置づけられている。

※(参考)九大跡地利用4校区協議会の今までの取り組み

○九大箱崎キャンパスに隣接する箱崎、東箱崎、筥松、松島自治協議会は、「4校区協議会」を平成20年6月30日設立し、跡地利用について協議してきた。

○当協議会は、移転後の跡地利用について周辺4校区住民全員に対するアンケートや現地見学会を実施するなど、鋭意検討を進め、「九州大学移転跡地利用に関する提案」をまとめた。

○平成21年7月10日発行「九大跡地利用4校区協議会ニュース」で中間とりまとめを校区の皆様にお知らせした。

○平成22年3月25日、吉田福岡市長、九州大学有川総長に対し「九州大学移転跡地の利用に関する提案」を提出・要望した。

○平成23年5月10日発行「九大跡地利用4校区協議会ニュース第2号」で福岡市、九州大学などに提案した跡地利用構想を校区の皆様にお知らせした。

○その後、東区選出市議会・県議会議員、九大教授OBに対し提案の実現に向け働きかけた。また、高島新市長に対し要望を行うとともに、東区自治組織等会長会からも市長への要望を行っていただいた。